

# 150

2018.10.21

# 長崎郵趣

## 全国郵趣大会2018 in 島原 報告



全国郵趣大会2018in島原 2018.9.8 於:ホテル南風楼 撮影:わかば写真館



# 全国郵趣大会2018in島原 報告

伊藤 純英

9月8日(土)～9日(日)の2日間、全国から総勢78名が島原の「ホテル南風楼」に集い、大盛況のうちに終了した大会の様子を報告します。

9月8日は11時から全国大会記念島原切手展2018が開会し、テーブルバザーや記念小型印2種の押印、展示作品の参観をしながら大会開始まで過ごしました。7月に「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」で世界文化遺産に登録されたばかりの原城へは、前日や2日目に訪れた方も多かったようです。13時過ぎには多くの方が受付を済ませ、参加者同士久しぶりの再会を喜び、歓談しながら、大会開始を待ちました。



13時30分に大会が開幕。はじめに物故会員に対して黙祷を捧げ、福井和雄理事長の開会の挨拶で始まりました。次に、伊藤純英実行委員長(九州・沖縄地方本部長)の歓迎の挨拶、ご来賓



の日本郵便(株)島原郵便局長・森谷和也様から祝辞をいただき、続いて、金川博史・会員増強協議会副議長から会員増強に向けてのメッセージがありました。

顕彰事業セレモニーでは、第38回郵趣活動賞・個人の部で飯塚悟朗、内藤陽介、永吉秀夫3名が表彰、郵趣文献賞は『竜切手プレーティングブック』の著者・山崎好是氏が表彰され、それ





それぞれ賞状と記念品が授与されました（欠席者は紹介のみ）。最後に、登録支部・団体50周年の特別表彰の授賞式がありました。これは1966年に最初の支部が設立されて昨年ちょうど50周年になったのを機会に、50年の間、継続して活動をされてきた登録支部・団体を毎年特別表彰することにしたものです。2018年度は5つの支部・団体が表彰されました。千葉支部の宮崎幸二支部長と、浜松支部・沼津支部・釜石支部・岡山支部については所属の地方本部長が代理で受賞しました。

セレモニー終了後に特別講演へと移り、特定非営利活動法人郵趣振興協会代表理事の吉田敬氏による「切手に学ぶ世界の知識～全世界ゼネラル収集～」と題した講演で、レジュメとプロジェクターを使用した大変わかりやすい説明で大好評でした。吉田氏は、今回の特別講演に伴



い、「目打が初めて公式に採用されるまでに世界で発行された切手」と「英領ギアナ 1856年暫定4c切手」を、1階松風の間切手展会場にて初日だけ展示をしていただきました。この両



者は今回がともに2回目の公開で、同時に見られるのは最初で最後という歴史的事件でした。

講演終了後はあいにくの雨で1階エントランスでの記念撮影。コンパクトに1枚の写真に納まって素晴らしい出来栄の写真となりました。

続く分科会第1部は、内藤陽介氏の「チェ・ゲバラとその時代一切手で読み解く」と、永吉秀夫氏の「戦後記念切手のさまざまな楽しみ方」、分科会第2部は、大沼幸雄氏の「テーマティック収集の原点」と、長野行洋氏の「猫に小判一郵趣エッセイでのサブ蒐集のすすめ」と、それぞ



れにバラエティに富んだテーマで参加者も興味深く、熱心に聴講されていました。セミナー以外では、切手展会場にて木下朋英氏による熱い作品解説、テーブルバザールや臨時郵便局での記念小型印押印や露天風呂入浴など、それぞれ関心のあるイベントに参加されて、記念パーティまでの時間を過ごしました。



18時にアトラクション「島農和太鼓」の演奏が始まり、迫力に圧倒された8分間の演奏でした。県立島原農業高校和太鼓同好会による「島農和太鼓」は、昨年の全国高等学校総合文化祭みやぎ総文2017に県代表で出演した地元島原を代表する郷土芸能です。演奏終了とともに記念パーティの開会が宣言され、福井理事長の挨拶、JAPEX委員会の森下幹夫委員長からの出品・寄附金の呼び掛けがあり、玉木淳一理事による乾杯で記念パーティがスタートしました。地元長崎の「地酒コーナー」が大好評で、酒と焼酎がたちまち空となりました。続いてワンリーフ展人気投票の入賞者の発表と賞品授与が行われました。

ホテルの美味しい料理と旨い日本酒が入り、各テーブルで情報交換、郵趣談義に花が咲き、程よく酔いの廻ったところで、特別オークションの開始です。今回は主に天野安治名誉会員からちょっとひねった名品の出品をいただいたという意味で「特別な」オークションでした。オークシニアの長野行洋氏(三鷹支部)の軽妙、ユーモアあふれる話術で場内が盛り上がり、リストアップした38点が盛況のうちに次々と落札されました。その後の行徳國宏氏提供の新刊本や(株)



鳴美提供の書籍、長崎支部出品の幻の和欧文印 OOMURA実郵便4通も次々に高値で落札されました。寄贈・参加された皆さまのご協力、ありがとうございました。

終宴間近となり、伊藤純英実行委員長から日本郵趣協会旗を福井理事長へ返還、福井理事長から次回開催地・大阪市がある関西地方本部・小西孝司本部長に渡りました。小西本部長からは「来年は大阪市のグランヴィア大阪で9月に開催します。ぜひ参加してください。」と呼び掛けがありました。

最後に、金川博史理事による3本締めで盛会のうちに記念パーティが終了。充実の1日目が終了しました。

2日目は9時から全国大会記念島原切手展2018の2日目。展示を一部入れ替えてスタート。この切手展は2011年の国際切手展で使用したフレームでの28フレームとショーケースを用いて行ったもので、地方で開催された切手展としてはこれ以上ないというレベルの高い画期的な切手展でした。島原郵便局がこの日のために仕入れた9月5日発売の「My旅切手レターブック(九州)」100冊も2日間でほぼ完売。テーブルバザール、臨時郵便局と賑わいました。大会参加者には島原郵便局からは風景印を押した特別な官白も配布され、多大なご協力をいただ





きました。12時頃には参加された皆さんもお帰りになり、2日間の大会を無事終了する事が出来ました。

最後に、日本郵趣協会をはじめ関係各位、そ



して九州・沖縄地方本部、長崎支部を始め全国の支部から実行委員を引き受けていただいた皆さまのご援助、ご協力に対して深く感謝の意を表して、全国郵趣大会2018in島原の開催報告とさせていただきます。

(報告：伊藤純英・実行委員長)

## 愛好家集い、切手三昧

### 島原で全国郵趣大会開幕

切手収集は、郵便物の目録「めうろ」が採りざり、希少な切手が多数存在し、集める楽しみが、郵趣の中心である。島原市では、切手収集の愛好家約80人が集まり、切手三昧の白熱を演じる。会場は、島原市ホテル南風楼で、開幕式が行われ、伊藤純英実行委員長が主催した。



事、吉田敬氏が特別講演「世界の切手」を世界知識と金銭感覚の両面から解説し、世界の未使用切手50万種類（840年）を2005年発行）を収めた吉田氏は、ゼネラルコレクションの経験をもとに「ゼネラル収集は、複製の国にまかり、切手の種類を一種でも多集める収集法、他人と競わず、自分のポリシーに基づいて収集することが大事」と助言し、収集うえで大切なこととしてお金の情報（ツール）の活用を挙げた。

## 切手収集愛好家が交流 島原で全国郵趣大会

郵便や切手の研究を行う日本郵趣協会（東京）主催の「全国郵趣大会2018in島原」が8日、島原市内のホテルで始まり、全国から集まった会員や切手収集の愛好家ら約80人が催しを楽しみ、交流を深めた。参加は自由で、9日まで。

全国各地で毎年、開催しており、36回目。本県での開催は初めて。

初日は、楽天野球団元社長、吉田敬氏が世界の切手収集の始め方・進め方について講演したほか、分科会、コレクション解説などがあり、参加者は切手に関する知識



世界の切手収集の始め方・進め方について話す吉田氏＝島原市井天町2丁目、ホテル南風楼

を深めた。このほか、世界に1点という未使用切手「英領ギアナ4セント」、初公開の「青色勅額未裁断シート」などを含む約450リーフ（台紙）の切手展示や橋口稔さん（84）＝長崎市＝の大浦天堂、平和祈念像など1000～4000枚の切手を使った貼り絵作品の展示もあった。

9日は、切手展示（一部を除く）や切手の展示販売などを予定。実行委員長の伊藤純英さん（61）＝島原市＝は「切手に興味のある方はぜひ来場を」と話した。（有森元司）

### 【写真説明】

左上：撤収前に実行委員会で記念撮影。

右中：9月9日付島原新聞

左中：撤収後、（左から）田畑副実行委員長・伊藤実行委員長・橋本副実行委員長

下：9月9日付長崎新聞